月刊
えくてびあん
立川と語ろう 立川に生きよう
1
<EKUTEBIAN-VOL.5, JANUARY, 1988-EKUTEBIAN>
まい・あーと作
パッチワーク
by 木本蘭子

あがり
ふりだし
新春寿初め
あけまして、おめでとうございます。新春のいろどりに華麗な「水引き」や「組み紐」をお目にかけましょう。新しい年のはじめに、ちょっと気持ちを飾って、さあ、一九八八年にユメ多かれと。
作品指導
水引き／梶　政華さん
組み紐／堀　和子さん
宝船
牡丹と蝶
水引
古くから進物の包み紙などにかけわたしたもの。祝・凶事に使用。
組紐
糸を八つ組・老松組などの組仕法によって組まれたもの。
ふくじゅそう
龍
くまで

新連載 立川駅長列伝 ～はじめに～

中野 明

少し先の話しになるが、再来年の春、立川駅は満百才を迎える。

明治二二年四月一一日、中央線の前身である甲武鉄道により新宿ー立川間が開通。この時、立川駅は誕生した。品川ー横浜間に陸蒸気が走り始めてから十七年後のことである。

計画当初は人口密度の高い甲州街道か、青梅街道沿いに敷設される予定が、沿道住民から、煤害や、宿場街が寂れるという理由で、モーレツな反対を食った。今日で言うところの〝住民パワー〟の走りと言ってよいだろう。やむなく、線路は武蔵野の原生林を一直線に貫いた。沿線には寒村が点在するだけで、「こんなところにレールを敷いて採算が取れるのだろうか」という懸念を誰もが抱いた。

立川駅と時を同じくして誕生した駅に、中野、境（現武蔵境）、国分寺の三つの駅がある。

その四ヶ月後の明治二二年八月一日、線路は多摩川を渡って、八王子まで延長された。

明治二三年六月改正当時のダイヤによれば、タンク機関車に牽引されたマッチ箱のような客車が、新宿ー八王子間を往ったり来たり、一日五往復した。料金は当時の値段で、立川ー新宿間 下等二十二銭、中等はその二倍、上等は三倍というべらぼうな高さで、利用客も大地主や一部の商人たちに限られていた。一般庶民にとって、鉄道は、まだまだ高峰の花だったのである。

一日の乗降客は五、六十人程度というのんびりしたもので、列車が出て行ってしまうと、手持ちぶさたの駅員たちは待ち合わせの乗客に混じって、駅前の茶屋で時間を過ごしたという。

当時の立川駅前風景を詠んだ若山牧水の歌碑が北口広場に建っている。

立川の駅の古茶屋さくら樹の
もみじのかげに見送りし子よ

そして、時は流れた。沿線の人口はまたたく間に膨れあがり、中央線は今やラッシュ時の乗車率二五〇～三〇〇パーセント。文字通り、押しも押されもしない東京の大動脈へと成長した。毎朝、二分三〇秒毎にホームに入って来るオレンジ色の十両編成の電車を見たら、牧水は何んと詠んだであろうか。

その成長を立川駅と共に見守って来た男たちがいる。心から鉄道を愛し、安全輸送一筋に生きて来た誇り高き四十名の鉄道マンーー歴代立川駅長。ここでは、日頃知られざるその素顔を拝しながら、ありし日の立川駅を偲んでみたいと思う。題して『立川駅長列伝』。

四十名の歴代立川駅長のうち、残念ながら既に半数以上の方が亡くなられている。今回、御登場願うのは二十一代以降の方々で、年代で示せば昭和三十年以降ということになる。

戦後の国鉄史は輸送力増強とスピードアップに伴う動力の近代化と合理化、そして労使問題に彩られている。この動乱の時代を、その時々の社会情勢に対応しながら、それぞれの信念の赴くままに駆け抜けて来た男たちである。

子供の頃からの憧れだった〝赤い帽子〟をかぶり、ホームに立ったあの日の感動、春闘の怒号の中、列車を出すことができず、労組職員のふりかざす赤旗が涙ににじんだあの時、お召し列車を見送る挙手の白手袋が震えたあの日、空高くそびえる駅ビルの容貌に、ありし日の立川駅を思い胸熱くする今日ーー。

それぞれが、それぞれの胸に秘めた想いを熱っぽく語ってくれた。それは、一一五年の歴史に幕を閉じた国鉄への弔辞であるとともに、新生ＪＲグループへの祝辞でもあった。

今、ここに、あの時代、あの日、あの時の立川駅がよみがえる。

（参考文献『中央線』朝日新聞社企画編）

「立川人・展'87」前夜祭

オープニング・パーティー

「立川人・展'87」オープニング・パーティーが盛大に行なわれ、師走のあわただしい中にも、なごやかなひと時が流れた。

●棋士6段の青木市長

●「椅子車」を書かれた山田しげおさん

今年は、とても文学的な香りが漂う会になったようです。

立川から、皆様ご存知の四冊の本が出されました。「立川飛行場物語」を書かれた、三田鶴吉さんも顔を出してくださいまして、また、「詩集・椅子車」を15年をようして歌いあげ、書かれてきた山田しげおさんも日の出町より駆け付けてくださいました。

さらに、「こだわり文房具」を書かれた鳥海忠さん、「対談集・夢はゆめ色」を書かれた立井啓介さんなど多くの方々の協力を頂くことができました。

例年掛けられている、のれんを見て「ほっ」とされる方も少しずつ増えてこられ、'85・'86のOB同士が一年ぶりの会再ということもあり、和やかな会場風景につつまれていた。

●三田さんの音頭で乾杯

●加藤一家せいぞろい

●信田美帆ちゃんのおかあさんも忙しい中を参上

●ハンドベル指揮者児玉さんも健在

今年は24名のベスト立川人が、選考委員会に選ばれた。選考の基準は「月刊えくてびあん」で取材中に得た情報をもとにおこなわれ、また各界からの推せんによるものも一部に含まれている。過去二年によって、人材ふっていの見方もあったが、それをよそにこれだけの逸材が集まったのは、立川市の確かな〝厚み〟であろう。

また、今回出席されていた、ハンドベルの指揮者児玉さんが海外での絶大な評価を受けての海外コンサートに、また、信田美帆ちゃんは、五輪へほぼ決定ではの一報が入ったり、さらに、野鳥写真家の原田さんの写真がオランダまで翔んだりと、立川の層の厚さと文化の水準の高さをみる思いです。

この様な、市民が市民の手で市民を賛えることが出来るのは全国654市の内の立川市だけである。

●なごやかな中にしんぼくが深まるオープニング・パーティー

真如苑だより

年が明け街の中には、晴れ着姿の方が多く目に写る時期になりました。

今年もお気軽にどうぞ、お越しください。お待ちしてます。

■日時　1月23日(土)
　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」「本誌を手渡してくれた人」へ。

漢字テスト㉔

空欄に一字挿入を試みよ。

□器小用
一場□夢

表紙は語る

キャリヤ十数年の木本鷹子さん。まだ、世間の中で持てはやされていないころより初めたパッチワーク。たまたま友人宅に行った時に、目に付いたキルトが作る気っ掛けになった。帰る道すがら、さっそく本屋さんに立ち寄り、当時まだ少ないパッチワークの本を買い求め、自己流の製作にかかった。製作し初めると、これがなかなか楽しく、野原三光先生を師として腕を磨き、今では数多くの方に教えている。ここまで続いた秘訣をお聞きしたら「家族の協力です」。というひと言が返ってきた。

立川のモニュメント⑫（最終回）

馬頭観音

馬頭観音（観世音）は、馬がまだ運搬に使われていた頃、天寿を全うすることたく人のために炭や野菜を運び、死んでいった馬の霊をまつったものだ。立川には、江戸時代から昭和初期まで、四十余りが建てられている。

多摩川近く、下水処理場わきにある馬頭観音もその一つ。昭和四年二月、松村福造と刻まれたものと、その後ろに寄進したらしい人の名前がズラリと彫られた観音像（大正十三年二月建立）が、ひっそりと立っている。

何も言わず働いた馬に、せめてもむくいるために建てた碑は、時の流れとともに人々に忘れ去られても、黙って道行く人を見つめている。

歴史のモニュメントは、今回でおしまいです。この連載のおかげで、私自身これまで見過ごしていた石碑のいわれなど、知ることができました。が、読んで下さった皆さまへ、何かのお役に立ったかと思うと赤面のいたりです。一年間有難うございました。（東畠弘子）

工房から

●寒さも一段と厳しくなっていく折り、お正月の一言で、その寒さも少々柔らぐようです。立川の駅もいよいよ百歳を迎える、国鉄からJRに変わって、色々な企画が行なわれたりと、少しずつイメージが変わりつつあるようです。●今月から、新連載「立川駅長列伝」が初まります。「立川のモニュメント」同様よろしくお願いいたします。●「ベスト立川人・展'87」も3回目を迎えて、今年はどんな人材に恵まれるだろうかと、胸ときめかせながらの取材が続きました。毎ごとに厚みを増してきています。これも皆さまの蔭ながらのお支えあればこそと編集工房一同感謝しているしだいです。また、いろいろなユニークな方あればご一報を●さわやかな正月自律のえくてびあん

（編集）石塚敦美　佐藤玲子　小川知子　神山清子
鵜川輝　田中恵子　半沢正弘　東畠弘子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治
スタジオ269

漢字テスト・こたえ

大器小用
人並すぐれた才能のある人を使いきれぬこと。

一場春夢
春の夜に見る夢のようにはかなく消えていくさま。

月刊えくてびあん　第42号
昭和六十三年一月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

あのこかわいや・⑦

看板娘 立川

いつもお客さんと接しているとはいえ、実ににこやかな美容師さんたち。この仕事は立ちっぱなしで結構、重労働なんです。それに技術も駆使しなければ。それでも素知らぬ顔でニッコリは、さすがに看板娘！

ゆ　美容室「モン・ヘア」の

さ　「イブシロン」美容室の 倉持幸子さん

か　ビューティー「ウィスタリア」の 林和代さん

か　「アリス」美容室の 海老原薫さん

る　美容室「ウィル」の 大川るえ子さん

け　美容室「V-----」の 川島恵子さん

ま　「アリス」美容室の 星まゆみさん

ま　美容室「BEPPIN」の 須藤真美さん

ち　ビューティー「クサカ」の 森山千代子さん